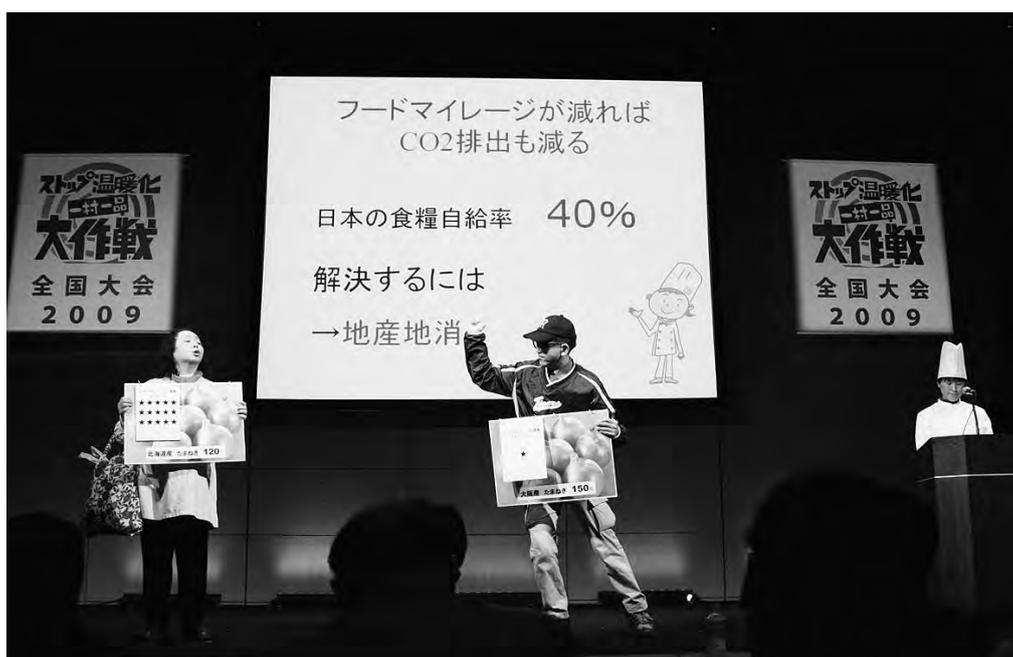


# あおぞら財団 年次報告書

## Vol.12

2008.4~2009.3



地球温暖化防止「一村一品」大作戦全国大会で特別所を受賞(2009年2月15日)

### もくじ

2008年度事業をふりかえって	2
地域づくり 桜木町自治会・住民提案づくり	4
市民活動のための環境アセスメント講座	4
資料館運営 西淀川公害パネル完成	5
環境学習 環境省ESDモデル地域で見えてきたこと	6
環境保健 呼吸リハビリテーションを広げる	7
国際交流 日中交流事業2008	8
寄附・寄贈者	9
財政状況	9
役員・職員	9
「あおぞら財団」活動に関する資料	10
ボランティア、インターン参加者	12

2009年9月

財団法人 公害地域再生センター (あおぞら財団)

## 2008年度事業をふりかえって

### (1) 2008年度の方針

2008年度は、この間の調査研究の蓄積や地域とのつながり、実践の経験、各分野の研究者、専門家らとのネットワーク等をフルに活用して各分野での取り組みを一層発展させ、こうした活動と成果を意識的に地域再生、環境再生に結実させていくことが求められている。なお、2007年度は、多額の寄付金を受けるなど財政状況は一定の改善を見たが、引き続き財政状況が困難な状態に変わりはなく、今年度も、基本財産の有効な活用等を行いつつ、個々の業務の見直しを進め、人的資源の適正な配置、強化も検討していく。

個別事業としては、引き続き、エコドライブ推進事業をはじめとした「地域マネジメントセンター構想」の実現など交通まちづくりの取り組み、公害患者らのリハビリプログラムのモデル事業の実施と普及、西淀川公害を素材にした環境教育プログラムやフードマイレージの普及、公害関連資料の収集、保存、整理、情報提供と地域資料館としての取り組み、中国を中心とした公害経験を伝える国際交流活動、6年目を迎える「道路環境市民塾」の開催などを行っていく。また、定期的な学習会の開催等による研究員のパワーアップとともに、財団を物心両面から支えるサポーター（賛助会員）を拡大し、「ボランティアの日」をはじめ事業活動を協働して取り組むボランティア・スタッフ制度の強化、インターン生の積極的な受け入れを進めるなかで、市民・住民とともに歩む自立した財団をめざす。

### (2) 2008年度の総括

2008年度は、西淀川地域再生研究会と連携した「環境と福祉を統合する参加型交通まちづくり」の実践を伴った調査、研究が進展し、財団がその普及に努めてきたフードマイレージの取り組みにおいて、財団の職員等が参加する研究会が、「ストップ温暖化『一村一品』大作戦2009全国大会」で特別賞環境教育賞を受賞し、「西淀川・公害と環境資料館（愛称エコミューズ）」において、西淀川公害の記録と証言をまとめた13枚のパネルが完成し、さらに、2007年度からはじめた中国などとの国際交流事業も新たな展開を見せた。一方、担当職員の不手際や事業施行体制の不備等によって、大きな困難を抱えた事業もあり、これらは厳しい反省と共に今後の教訓としていきたい。

また、2008年6月に「将来構想検討委員会」を設置して、現在、財団設立の趣旨や目的を達成していくための今後の重点事業等の検討を行っているところである。

なお、2008年度は、基本財産の活用によって資産取り崩しの縮小を図ったが、次年度は、未曾有の世界的な金融危機の進行によって基本財産の有効活用は不可能となっており、厳しい財政状況が予想されている。組織的な課題としては、新たな職員採用、個々の業務の見直し、人的資源の適正配置、特別研究員制度の新設、常務会の定期的な開催など、事業施行体制の整備強化などがあげられる。



西淀川公害の記録と証言をまとめた展示会で  
(2008年12月12日)



「第8回環境法律実務研修」に参加、交流を深める  
(2008年11月3日、北京で)

## Ⅱ. 重点事業

第1に、蓄積してきている地域の基礎調査や住民、市民との結びつきを生かすなかで、2008年度は、「西淀川地域再生研究会」「道路検討会」等と連携して、「環境と福祉を統合する参加型交通まちづくり」の調査、研究、実践を行い、「地域交通マネジメントセンター構想」の実現に向けた活動を展開する。

第2に、「西淀川・公害と環境資料館」を活用した活動において、引き続き公害資料の収集、保存、整理、研究を積み重ね、2008年度は、昨年立ち上げた資料館運営のための基金（ハモン基金）を活用して展示資料のリニューアルを行い、西淀川公害の経験を伝える企画展や学習会を開催するなどして、住みよい地域環境の構築と環境教育の充実をめざした取り組みを展開する。

第3に、これまでの国際交流の経験や海外NGOとのつながり、2007年度に実施した中国の公害現場の調査や環境NGOとの交流を基礎にして、2008年度は、国際交流の活動として、工業発展と都市化の進行によって激甚な公害が進行している中国との交流を進める。とりわけ日本の公害経験を伝える本の翻訳や公害被害者らとの懇談等を重視した交流を行う。

第4に、環境教育の分野では、西淀川公害を素材にした環境教育プログラムやフードマイレージ、大野川緑陰道路の教材などの普及、西淀川高校とのあおぞらプランの推進などを行い、ESDモデルの作成と促進事業を展開する。

第5に、寄付金の有効かつ積極的な活用も含めて、今後の長期的な事業計画、財政計画の策定及び公益法人への移行に関する検討を開始する。

## Ⅲ. 個別事業

### 1. 公害のない住みよい地域づくりを進める活動（地域づくり）

- ①西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会・歌島橋交差点について
- ②西淀川道路環境対策検討会、西淀川地域再生研究会の実施・運営
- ③第Ⅵ期 道路環境市民塾の開催
- ④エコドライブの普及
- ⑤ESTパネルディスカッション
- ⑥自転車文化タウンづくりの会（事務局）
- ⑦西淀川地域再生プロジェクト
- ⑧西須磨・桜木町の住民提案づくりのサポート
- ⑨外部電源式アイドリングストップ冷暖房システム
- ⑩アセス講座の企画・運営
- ⑪徳島市環境リーダー養成講座の企画・運営

### 2. 資料館の運営とネットワークづくり（資料館）

- ①「西淀川・公害と環境資料館」の運営
- ②広報
- ③ネットワークづくり

### 3. 公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習（環境学習）

- ①ESD促進事業を通じ、西淀川区全体の環境学習を推進
- ②西淀川公害や地域学習の支援
- ③交通環境学習の拡大（フードマイレージ買物ゲームの普及、SCPブロックの活用）
- ④まちづくりの担い手づくり（西淀川高校とのあおぞらプランの推進、こどもエコクラブの支援）

### 4. 公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動（環境保健）

- ①高齢認定患者のリハビリテーションプログラムの開発に関する取り組み
- ②ぜん息患者の実態や調査に関する情報収集
- ③公害保健福祉事業の推進・支援
- ④環境保健事業の検討体制づくり

### 5. 国際交流

- ①大気汚染経験情報発信事業
- ②日中の公害・環境問題を考える学生セミナー

## 高架四車線の道路用地を公園遊歩道へ 桜木町自治会・住民提案づくり

神戸市西須磨地域は、海と山に挟まれた風光明媚な土地にある閑静な住宅地です。周囲には源平ゆかりの古刹・須磨寺やかつては宮内庁所有の離宮公園があります。お屋敷街としての雰囲気を残すこの地域を東西南北に分断する3本の都市計画道路が、阪神大震災後の大混乱の中で事業認可を受け整備着手されました。住民がまだ避難所にいる中で行われた強引な事業決定は、住民の強い反発を招き激しい反対運動が起きました。その結果、最大6車線を2車線にするなど3本の道路のうち2本は、計画内容を変更し整備されました。そのうち中央幹線については、住民主導で整備案をつくるワークショップの運営をあおぞら財団でお手伝いした経緯があります(2001年)。

今回は未整備で空き地のままになっている須磨多聞線用地のある桜木町地区の自治会から公園遊歩道としての整備案を行政に提案したいとの依頼を受け、CASEまちづくり研究所と協同で住民提案づくりを行いました。

まち歩きや模型を用いた住民ワークショップを3回、子供の意見を聞くワークショップを1回、地区の祭への展示とヒアリング、地区へ全戸配布したアンケート調査などを経て、整備案をまとめました。



模型をつかって考える

幅約25m~40m長さ約450mの道路用地の上に、住民が考えた案は「緑と花の丘」「多目的広場」「花のガーデン」「子どもの遊び場(冒険遊び場・小っちゃい子の広場)」「ゆっくり散策 くつろぎの広場」。防犯や管理の仕方など公園ができた後のことも考え、樹木や地形、歴史など、既存の資源を活かしながら、小さい子からお年寄りまで安心して使える案になりました。

住民の思いの詰まったこの整備案は、今春、行政へ提出、あとは行政の返答を待つばかりです。

の意見を聞くワークショップを1回、地区の祭への展示とヒアリング、地区へ全戸配布したアンケート調査などを経て、整備案をまとめました。幅約25m~40m長さ約450mの道路用地の上に、住民

## 岡山初開催。地元団体の力も借りて大盛況! 市民活動のための環境アセスメント講座

一定規模以上の開発をする事業者は、事前に地域環境を調査することが法律で義務付けられています。その調査方法と結果に対する事業者の方針を、市民に公示し(アセス図書)、意見を募らねばなりません。市民と事業者のやり取りの中で、開発を地域環境に負荷の少ないものにしていく制度が、環境アセスメント制度です。

環境アセスメント制度は、法律で制定されて10年が経ちますが、2007年度はアセス法対象案件44件のうち、方法書に意見が出なかったのが13件、準備書は9件(傘木、Libella, No104)。アセス図書の読解は難しく、意見提出にもテクニックが必要です。一般の市民にとってアセスはまだ遠い存在といったところでしょうか。市民意見があつてこそ生きる制度、広く市民に知ってもらい、活用できるようになってもらう学習の場として、独立行政法人環境再生保全機構(旧:環境事業団)より委託をうけ「市民活動のための環境アセスメント講座」を平成10年より企画・運営しています。

今年は、岡山市で開催することになり、現地の市民団体「瀬戸内海会議」、「みずしま財団」の2団体の協力を得て開催の運びとなりました(2/14,15,21,22)。

現地団体に強力な広報活動をして頂いた結果、30名の定員に対し60名近い申し込みがあり大盛況の講座となりました。

今回の企画の目玉でもあるフィールドワークでは、船とバスを乗り継いで倉敷臨海部開発を見学しました。広大な水鳥コンビナートや瀬戸大橋など、アセス案件の開発を間近に眺め環境にどんな負荷があつたのかを体感して学びます。

「環境アセスメントと言うととても堅苦しい感じを受けたが、やっていくうちに『なるほどなあ』と思いながらある程度理解を得る事ができた」「アセス制度への期待度と課題を実感した」など参加



処分場を見学

者から感想がよせられました。一人でも多くの参加者に講座で学んだことを、実践に活かしてほしいと願っています。

(小平智子)

つらしんぼ



「うああ〜離宮道にはこんなアーチがあつたの!」年配の方は懐かしそうに、若い人は驚いて昔の桜木町写真を囲みワイワイと。自治会整備案を作る作業は、まず持ち寄った昔の写真で町の今昔を知る事から始まりました。そして、あおぞら財団とCASEのメンバーが、いろんな方法で未来の町イメージを住民が描けるよう援助して下さり、胸を張れる提案が誕生しました。

濱智恵子(桜木町自治会会長)

## 西淀川公害パネル完成

### ■ 様々な立場の人々の活躍がわかるパネル展示

あおぞら財団設立から13年ですが、その間こつこつと資料整理を進めて、ついに資料館をオープンさせたのが3年前のことです。資料は提供できるようになったけれども、そもそもの西淀川公害というものが何であるかを伝える展示がないというのが開館以来の悩みでしたが、ついに2008年度に作成することができました。

内容については、あおぞら財団と共に環境教育に取り組んでいる現場の先生方との話し合いを参考にしました。先生方からは「公害解決のために努力した人々（企業、行政、医者、住民など）の生き様がわかるような情報がほしい」「被害者としてだけでなく職業人として公害に出会ったときにどのように行動すればよいかを伝えてほしい」「学生達に社会人として行動するモデルを示したい」という要望がだされました。この発想はとても新鮮で、公害を学ぶ中には職業教育という視点があることを教えてもらいました。そこで「公害・みんなで力をあわせて一大阪・西淀川地域の記録と証言」と題して、様々な人々が登場するものを作成することになりました。

幸いなことに、エコミューズでは2001年から西淀川地域研

究会を開催して、西淀川公害に関わった人たちである弁護士や医者、新聞記者、行政、教師など様々な立場の人々へ聞き取り作業をしており、体験談の蓄積を展示パネルの材料にすることができました。

作製中、登場する人々に意見を聞くたびに、あれも加えてほしいと色々な意見をもら



いました。日を追うごとに情報量が多くなる一方です。しかし、伝えやすくするためには情報を減らしてまとめる必要があります。頭を抱える毎日。紆余曲折がありましたが最後には、患者・医者・教師・国と自治体・ジャーナリスト・地元企業・弁護士・学者と、様々な立場の人々の活躍を描くパネルが出来上がりました。（写真はパネルと展示会）

### ■ みんなの募金で展示が完成

展示作製のための資金は、2007年度におこなった募金50万円をあてました。展示のデザイン・印刷だけではなく、資料館のリフォームも行い、2008年12月に完成しました。リフォームでは来館者にリラックスしてもらえるようにと、杉材でパネル展示用の壁を作りました。木の香りがする資料館に、ぜひ一度足を運んでください。

### ■ Webサイトで公開中！貸し出しもしています

展示パネルの内容は、Webサイトでも公開しているので、ぜひご覧ください。

([http://www.aozora.or.jp/kougai\\_panel.htm](http://www.aozora.or.jp/kougai_panel.htm))

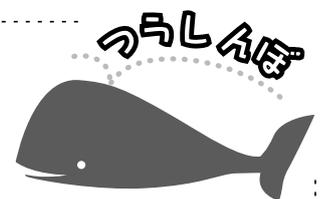
なんと中国語版もあるのですが、Webサイトのみの公開です ([http://www.aozora.or.jp/kougai\\_panel\\_c.htm](http://www.aozora.or.jp/kougai_panel_c.htm))。日本語の展示パネルは貸し出しを行っているので、公害学習や人権学習などで使用してもらえると嬉しいです。

(林美帆)



2008年度は大変でしたね。パネルの作成であれほど会議を重ね、細かくパネル案を検討したのはおそらく初めてだったでしょう。しかし、これで資料館の形が整いました。資料館に来ると西淀川公害がわかりやすくなりました。また館のレイアウトの変更もしましたので、大変気持ちよく使いやすくなったと思います。

小田康徳(エコミューズ館長 大阪電気通信大学教授)



## 環境省ESDモデル地域で見えてきたこと

あおぞら財団では西淀川公害の学習プログラムづくりや、交通環境教育の教材作り、子ども達との自然観察、地域調査や提案づくりなどに取り組んできました。これらの活動は、ボランティア中心に進められ、事務局をあおぞら財団が担う形式で行われてきましたが、活動を続けていく中で、もっと多くの人に参加してほしいという悩みを抱えていました。

### ■ つながりが切れている

丁度その時期に、「ESD(持続可能な開発のための教育)」という概念と、環境省がモデル地域を募集していることを知りました。これまでの活動を飛躍させるために、モデル事業に応募し、2007年度、2008年度と2年間「持続可能な交通まちづくり市民会議」と題して活動することになりました。

2007年度は西淀川地域で環境教育に関心がある小・中・高校・大学の先生方や、ガールスカウト等の青少年活動の指導者、地域の社会教育施設、行政の担当者、地域の人々など、多様な顔ぶれを集まり、お互いが「何をしているか」「どういう悩みがあるか」「どうしていきたいか」ということを共有するところから始めました。お互いの悩みを聞いているとたくさん共通課題が見えてきました。それは「人と人とのつながりが切れている」ということです。「小・中・高校・大学の枠を超えたつながり」「意欲ある人と人をつなげよう」「地域と学校をつなげよう」「楽しいことでつなげよう」を実践したいという意見があがりました。

### ■ 菜の花プロジェクトでつなぐ

集まっている人たちは、色々な活動の場を持っている人たちです。その中で大阪府立西淀川高等学校は菜の花プロジェクトを行っていました。菜の花プロジェクトとは、菜の花を栽培し、観察して楽しみ、その後タネをとり搾油して食用油として利用した後に、バイオディーゼル燃料(BDF)にしてリサイクルする取り組みです。西淀川高校は菜の花畑と、廃油をバイオディーゼル燃料に変換する精製機を持っていましたが、スタートしたばかりで手探り状態でした。地域を巻き込みながら菜の花プロジェクトを実現できれば、新たな「つながり」を「楽しく」作っていきけるのではないかと話し合いました。

具体的には、2008年度は菜の花の収穫作業、脱穀、畑の開墾、種まき、草取りなど、一連の農作業を高校生だけではなく、中学生や大学生、地域の人たちと一緒にを行いました。中学生は大阪市中学校教育研究会特別活動部の活動の一環として、菟中学校・梅南中

学校・淀中学校の3校が参加しました。大学は大阪経済大学の現代GP「地域に開かれた体験型環境・まちづくり教育」に参加する学生と先生方です。

その他にも、

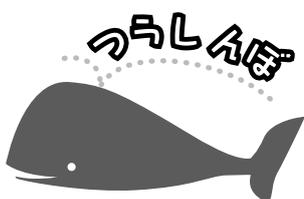
菜の花プロジェクトを広く知ってもらおうと、広報活動を行いました。西淀川高校3年生全員にステッカー図案とキャッチフレーズ案を考えてもらい、西淀川ESDの会議で優秀案を選びステッカーを作ったり、ガールスカウトが毎年行っている緑の募金に高校生と中学生も参加して菜の花の種付きの栽培ガイドを募金してくれた人に配ったり、地域のお祭りに出展してBDFで発電した電気を使って綿菓子を製造しました。これらの活動は、一つの団体だけではなかなか実現し得ないことです。色々な団体が自分の資源を出し合い、助け合い、情報を共有する中で新しい関係性が生まれ、実現したものです。

### ■ 新しい体験が「楽しい」

このESDの取り組みのポイントは異年齢の交流です。その効果として3点ほどあげることができます。1点目は「教え-教えられる」体験です。大学生が高校生に、高校生が小学生に教えたりする中で、しっかりしようという自覚が芽生えてきたり、中学生の頑張りが高校生を刺激したり、小学生のはつらつとした姿に高校生や中学生もがんばろうと思えたり、教え教えられる場面で生まれる刺激でお互いが元気になることができました。2点目は「伝える」体験です。普段行動を共にしない人たちと交流するには「伝える」ことに努力しなければなりません。他者へ伝える経験を繰り返すことで自信がついたようです。3点目はいろんな視点を知る体験です。教える立場(先生)と教えられる立場(生徒)とは違う立場の人(第三者)がそばに寄り添うことで、子どもたちは同級生の友人だけでなく、異年齢、社会人と接する中で、物事の視点が増えたようです。これらの新しい体験が「楽しい」につながったのではないかと考えられます。

西淀川で生まれた良いつながりの輪をこれからも広げたいと考えています。

(林美帆)



西淀川高校で本格的に環境教育が始まって5年になります。偶然にも国連の「持続可能な開発のための教育の10年」(DESD)の始まりと軌を一にしています。ESDを学校現場でどう実現させるのか、と最初は雲をつかむような話でしたが、あおぞら財団のご協力を得て、少しずつではありますが、形が見えてきました。現状はまだまだですが、一歩ずつ積み上げてきたつながりを軸に、ここからの踏ん張りが「西淀川ESD」の正念場だと思っています。

辻幸二郎(大阪府立西淀川高校教諭)

## 呼吸リハビリテーションを広げる

大気汚染によってぜんそくや慢性気管支炎など公害病になった認定患者の高齢化が進んでいます。2008年3月現在、全国の65歳以上の認定患者は38%を占め、加齢と病気が重なり息切れなど、日常生活に困難を抱える人が増えています。こうしたなか、高齢認定患者の日常生活動作の負担を軽減させるために効果的なりハビリテーションプログラムの開発と普及に取り組んでいます。

### 地域連携で進める

倉敷市水島地域をモデルにした取り組みでは、水島協同病院の協力のもと、①外来患者むけりハビリプログラム②教育入院によるリハビリプログラム③かかりつけ医と連携した地域ケアを進めるための検討④地域への普及・啓発などを実践してきました。

教育入院プログラムの実践では、医師、理学療法士、看護師、薬剤師、栄養士などがチームを編成、患者への総合的なケアとプログラムの検証が行われました。また、地域のかかりつけ医と連携した取り組みを進めるため、地元医師会や保健所の協力を得て、検討会を開催しました。



### やってみる・広げる

「息切れとうまくつきあう方法 教えます!」——呼吸ケアリハビリテーションの効用を知ってもらい、広げるための活動として取り組んだ講演会、懇談会は、患者向けと医療従事者向けにそれぞれ開催。長崎大学大学院の千住秀明先生が講演しました。

教育入院プログラムに参加した患者は、「息切れを軽くする呼吸の仕方や楽な動き方、漫然と使っていた吸入器や薬の飲み方を教えてもらい、とても役に立った。教えてもらったことを毎日続けます」と話していました。

### パンフを作って「お試し」

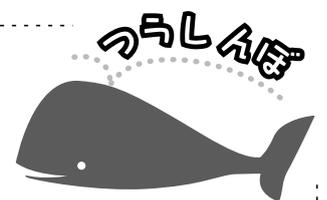
一方大阪では、「まちのお医者さん」～かかりつけ医が短時間で呼吸リハビリテーションを“伝授”できるパンフレットを作って、かかりつけ医を通して患者による「お試し」を実施しました。この簡易リハビリテーションプログラムの検討には、近畿大学堺病院の長坂行雄先生、刀根山病院の前倉亮治先生、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターの石原英樹先生の協力をいただきました。

(上田敏幸)



この間、当院でも呼吸ケアプログラムの開発と実践にたずさわり、多くの勉強をしましたし、スタッフも成長しました。そうした取り組みの延長線に地域連携という課題が浮かび上がってきています。困難も多々あるだろうけど、やりがいのある課題だと感じています。

里見和彦(水島協同病院院長)



## 日中交流事業2008

2008年度の国際交流事業は、五輪後の北京訪問&懇親会に始まり、武漢・上海への視察・交流、学生セミナーの開催、翻訳事業の進展に取り組みました。

まず、11月3日には、中国・北京市を訪れ、中国各地の司法関係者100名近くが環境に関する法律や制度などについて学ぶ「第8回環境法律実務研修（CLAPV主催のセミナー）」に参加し、村松昭夫専務理事が「アスベストによる大規模被害と損害賠償訴訟（大阪泉南地域の取り組みから）」の報告を行いました。さらに同日夜には森脇理事長が「西淀川の大気汚染公害」を語る懇親会を開催し、自由参加にも関わらず出席いただいた約50名の方々と熱のこもった意見交換を行いました。

続く、2009年1月には関西圏の大学に通う中国からの留学生と日本人大学生約20名が参加する「日中の公害環境問題を考える学生セミナー」を開催しました。同セミナーは、アジアの公害環境問題を同じアジアの一員として学生同士で考え合おうというものです。当日は、日本の公害の歴史と中国の公害環境問題の現状についての話題提供を行った後、グループで「環境問題解決のための課題、今後の日中交流で何がで



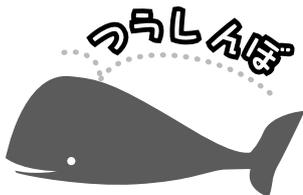
工場から200mのところに住む許太生氏に、宝鋼集団の精錬所周辺を案内していただく。

きるか？」などを議論しました。議論の中で話題となったのは日本でも中国でも「どのようにすれば人々に公害環境問題に関心を持ってもらえるのか？」という点でした。さらに、日本の公害経験を伝えるとともに、公害克服の歴史の中で獲得してきた環境対策技術や法制度などを中国に伝えることも重要であるとの意見が留学生から上がりました。さらに、同年2月には武漢・上海を訪問し、様々な方々との交流を進めてきました。武漢では、環境法関係では他地域に先駆けた取り組みを進めている武漢大学環境法研究所や武漢大学社会的弱者権利保護センターを訪問し、王樹義氏（研究所所長／教授／中国法学会環境資源法学研究会副会長／湖北省人民代表大会常務委員）等より、取り組みや湖北省周辺における環境訴訟の現状について話を伺うとともに、大いに歓待を受けました。さらに、武漢市洪山区人民法院の見学や実際に環境訴訟に関わっておられる法官や、実際に環境訴訟に関わっている弁護士の方にも話を聞く機会を得、実際の環境訴訟案件についての動向を伺うことができました。

続いて訪れた上海では、中国でも有数の鉄鋼企業である宝鋼集団（上海市宝山区月浦鎮）周辺で大気汚染や騒音被害に関する訴えを行っている住民との懇談、現地視察を行いました。今後も、現在進めている日中交流活動の進展が、アジア全体の公害・環境問題の解決の一助となるよう取り組んでいきます。（藤江徹）



武漢にて、「武漢市洪山区人民法院」正面玄関に掲げられた「热烈欢迎“日本財団法人公害地区復生中心”代表团来我院交流访问」の横断幕。



一衣帯水の隣国である中国と日本は、これほど身近にありながら環境NGOどうしのつながりがほとんどありません。中国では、環境NGOの設立を試みる多くの市民が厳しい許認可の壁の前で立ち往生しています。このようななか、50名を越える中国の司法関係者有志との懇親会で「熱のこもった意見交換」ができたことには大きな意義が認められます。ただし、北京ではこの夏、いわゆる「人権弁護士」に対する粛清の嵐が吹き荒れております。1000人を超す弁護士が狙い打ちにあって司法機関への登録を取り消されることになりました。あおぞら財団の日中交流事業も難しい場面が出てくるかもしれませんが、あまり成果を急がず、とりあえずは政府に認可された環境NGOとの交流で足場を築くのも重要なことと思います。

櫻井次郎(名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻 助教)

2008年度寄附・寄贈者（敬称略）

相川泰	鹿島茂	辰巳正夫	増田純子
秋澤英俊	片岡直樹	津下佳世	松岡弘之
明仁憲一	金谷邦夫	柘植光代	松田毅
浅井真二	川崎美栄子	津留崎直美	松村暢彦
浅野敬子	神吉紀世子	寺西俊一	松本直子
天野憲一郎	北島勉	寺村定晴	的場典子
新井真	久保信二郎	友澤悠季	丸田道子
栗屋かよ子	倉松靖英	富田重行	南慎二郎
石井琢也	蔵本幸治	豊島協一郎	南 清吾
伊田緑	後藤さゆり	中島晃	宮本憲一
一方井誠治	小林俊康	中瀬	宮本由貴
市村康	是枝洋	中谷素子	村上弥
上杉剛	佐賀朝	中野市	村松昭夫
植田和弘	酒井健一	永松 伸吾	百瀬和重
上田幹枝	坂本裕子	中山裕二	森晶寿
内田淳	崎坂香屋子	波部恒昭	森実千秋
遠地昭典	櫻井次郎	西口勲	森本米紀
遠藤宏一	塩貝隆夫	野尻節雄	森山正和
逢坂隆子	重森喜夫	野呂雅之	安原歩
岡崎久女	宍野雅幸	畑 明郎	和田美頭子
岡田知弘	芝村篤樹	原田智代	山崎博幸
岡本	清水鳩子	原田素代	山本瑞絵
奥田哲史	清水万由子	日原一智	山本康子
奥村昌裕	下野憲一郎	平木雅己	除本理史
小平智子	進士五十八	福島正子	吉田 巖
小田康徳	関耕平	福島幸宏	米井公介
香川雄一	世戸栄子	福本富男	李秀容
柏原純夫	高田研	牧洋子	渡辺武

赤津法律事務所	(社)新川青年会議所
あしや市民活動センター	吹田市立古江台小学校
(株)アドバコム	全大阪生活と健康を守る会連合会
(有)あゆみコーポレーション	全国公害患者の会連合会
安中幼稚園PTA	全国公害被害者総行動実行委員会
ESD-J	武豊文化創造協会
茨城県農村研修館	大田忠南 グリーンコリア
茨木市	電力労働運動近畿センター
岩手県立紫波総合高校	豊中市立上野小学校
NHK徳島放送局	豊中市立桜井谷東小学校
(株)OMソーラー協会	豊中市立豊島北小学校
大阪経済大学地域活性化支援センター	西野田工科高等学校
大阪市教西大阪支部	西淀川図書館
大阪社会運動協会	日経BP社
大阪市立中津小学校	日本環境教育フォーラム
大阪人権博物館	(社)日本環境教育フォーラム
(財)大阪府こども育成連合会	東大阪地球温暖化対策地域協議会
尾道市公衆衛生推進協議会	雲雀丘学園中・高等学校
株式会社ワークルーム	姫島小学校
交野市旭小学校	財団法人ひょうご環境創造協会
金城学院中学校	(財)水島地域環境再生財団
(財)環境科学総合研究所	NPOみなまた
環境劇団いるか	水俣市立水俣病資料館
京都府立洛北高等学校	南区公害病患者と家族の会
公害・地球環境問題懇談会	箕面市立豊川北小学校
神戸女学院大学人間科学部	御幸森小学校
神戸女学院中高部	民主教育研究所
(株)神戸製鋼所	武庫川女子大学
国土交通省	守口市立小学校 江草
こども芸術大学	薬害イレッサ西日本弁護団
桜木町自治会	山口県JICAデスク
滋賀県国際協会	横浜市資源リサイクル事業協同組合
夙川学院短期大学	リパティおおさか
(株)ジョイックス	

財政状況（2008年4月1日～2009年3月31日）

収入（単位:円）		支出（単位:円）	
資産運用益	9,974,051	事業費	42,156,759
会費	1,619,000	管理費	21,834,795
受託金等	42,012,922	積立金取得支出	1,041,180
寄付金	1,812,712		
雑収入	2,987,754		
積立金取崩収入	6,727,814		
合計	65,134,253	合計	65,032,734
		当期収支差額	
		101,519	

役員・評議員／職員（50音順、敬称略） この項は2008年9月1日現在のものです。

理事長	村松 昭夫（弁護士）
理事	アグネスチャン（歌手、日本ユニセフ大使、教育学博士） 植田 和弘（京都大学大学院教授） 金谷 邦夫（うえに生協診療所所長、内科医師） 塩崎 賢明（神戸大学教授・同大学院工学研究科教授） 高田 研（都留文科大学教授） 新田 保次（大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授） 早川 光俊（弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事） 宮本 憲一（大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長） 森嘉 昭夫（特定非営利活動法人日本気候政策センター理事長、(財)地球環境戦略 機関特別研究顧問、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授） 森脇 君雄（全国公害患者の会連合会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長）
監事	長瀬 文雄（全日本民主医療機関連合会事務局長） 福本 富男（弁護士）
顧問	進士五十八（東京農業大学教授）
評議員	飯田 秀男（全大阪消費者団体連絡会事務局長） 太田 映知（(財)水島地域環境再生財団専務理事） 岡田 知弘（京都大学大学院経済学研究科教授） 神吉紀世子（京都大学大学院工学研究科准教授） 小池信太郎（公害・地球環境問題懇談会代表幹事） 辰巳 致（NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク理事長、 デイサービスセンターあおぞら苑施設長） 津留崎直美（弁護士） 西村 弘（大阪市立大学大学院経営学研究科教授） 永野千代子（西淀川公害患者と家族の会事務局長） 山崎 義郷（大阪府原水協事務局長代理） 松本 嘉子（財団法人淀川勤労者厚生協会常務理事兼西淀病院事務長） 中島 晃（弁護士、まちづくり市民会議事務局代表） 和久利正子（大阪公害患者の会連合会事務局長）

※理事は非常勤

事務局（2009年9月現在）

上田 敏幸（総務）
小平 智子（研究員）
林 美帆（研究員）
藤江 徹（事務局長・研究員）
眞鍋麻衣子（研究員）
鎗山善理子（会計・研究員）
石塚 裕子（特別研究員）
榎田 基明（特別研究員）

# 「あおぞら財団」活動に関する資料(2008.4~2009.3)

## 1. 財団活動に関する主な報道

日時	報道機関	見出し・内容等
2008年 4月 7日	毎日新聞	海越え協力のとき 日本の経験を中国へ～シンポジウム詳報
2008年4月No.154※	ザ・おおさか	小・中・高・地域をつなぐ環境教育 校庭の菜の花から菜種油、廃油で発電
2008年 5月 5日	FM京都三条	環境市民のエコラジオ「5月は自転車月間(大阪自転車文化タウンづくりの会の取り組み)」
2008年 5月18日	大阪民主新報	自転車文化タウンづくりの会 生活豊かにするツール
2008年 5月28日	ラジオ関西	G8環境大臣会合関連イベント「羽川秀樹と環境を語ろう」財団の紹介と温暖化の取り組み
2008年 5月30日	FMくらしき ラジオ番組	「みみみみずしまエコらばFriday」緑道教材できました 環境問題で地域の資源にふれる
2008年 6月 5日	朝日新聞	西淀川の 宝の緑学ぼう 元教師ら小学生向け副読本
2008年 6月16日	読売新聞	西淀川区・大野川緑陰道路 冊子で再考、自然と歴史 地元協力し自費出版
2008年 6月17日	大阪日日新聞	身近な自然と歴史にふれよう 区の小学生向け副読本完成 「大野川緑陰道路テーマ」公害訴訟経緯など紹介
2008年 6月20日	朝日新聞	道路特定財源通じ車社会考えよう あす大阪で市民塾
2008年 6月24日	大阪日日新聞	「自らの闘いの記録」「患者と家族の会が本出版」「子や孫の世代にきれいな青空を」「西淀川公害」
2008年 7月 8日	神戸新聞	「西須磨地区市の「須磨多聞線」建設用地」「住民自ら遊歩道整備案」 「ワークショップ始まる」第1回ワークショップの様子の記事
2008年 7月12日	福島民報	「食再見 変化のかたち」「環境配慮も食の基準に」 フードマイレージ買い物ゲームの紹介 * 7月12日福島民報、東奥日報、18日北日本新聞、26日神戸新聞：四紙同じ記事
2008年 7月12日	東奥日報	
2008年 7月18日	北日本新聞	
2008年 7月26日	神戸新聞	
2008年 8月25日	日経新聞	「CO2排出量計算 フードマイレージで食見直す」「サイト東西南北」
2008年 8月29日	FMくらしき ラジオ番組	「みみみみずしまエコらばFriday」 テーマ: 夏休みの宿題に役立つちよこっと情報～セミの抜け殻調査をやっています～(矢羽田)
2008年10月31日	FMくらしき ラジオ番組	「みみみみずしまエコらばFriday」 テーマ: 海外との連携・情報発信～中国との国際交流活動で日本の公害経験を伝える(藤江、矢羽田)
2008年11月 4日	読売新聞(大阪版)	「フードマイレージ考案グループ」「温暖化防止活動全国大会へ」「知恵の環づくり」府大会
2008年11月 6日	朝日小学生新聞	「みんなで学ぼう地球科」「食べ物はどこから」「輸送距離と環境への影響は」「買う時に考えてみよう」
2008年11月22日	神戸新聞	「都市計画道路「須磨多聞線」」「公園遊歩道に暫定整備へ」「建設断念」住民ら期待」「住民の力 市動かす」
2008年11月22日	読売新聞	「須磨多聞線」公害調停」「住民側が6項目提示」「公園遊歩道整備など」
2008年11月22日	朝日新聞	「住民側、公園化を要望」「須磨多聞線」公害紛争調停」「6項目の条件提示」
2008年12月 9日	神戸新聞	「須磨多聞線」用地の遊歩道化」「住民自ら整備案」 第3回ワークショップの様子の記事
2008年12月14日	毎日新聞	「ワークショップで紹介」「フードマイレージで考える地球温暖化」
2008年12月号vol.46	マイムプラザしらかわ	「食料を購入する際は「フードマイレージ」のことを考えて買い物しよう!」
2009年 1月16日	毎日新聞	「住民熱意で道路計画「撤回」」「事業認可後異例の判断 憩いの遊歩道に」「神戸市「須磨多聞線」」
2009年 1月17日	朝日新聞	「ストップ温暖化「一村一品」大作戦」「エコ活動我がが日本一」「排出量量るゲーム」
2009年 1月24日		大阪代表のフードマイレージ買い物ゲームの紹介
2009年 1月27日	日本農業新聞	「エコの目確かに」「地産地消の利点 ゲームで納得」
2009年 2月 5日	大阪日日新聞	「エコムーズ」「青い空 次世代へ」「地域の公害 記録と証言」「展示パネルが完成」
2009年 2月16日	読売新聞	「温暖化防止で表彰式」一村一品大作戦全国大会の結果の記事
2009年 2月16日	NHK岡山放送局	NHKニュース 環境アセスメント講座 ワークショップ、現地見学の様子を放映
2009年 3月15日	讀賣新聞	ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会
2009年 3月27日	FMくらしき ラジオ番組	「みみみみずしまエコらばFriday」身近な地域・自然を調べてみよう! 教材にしてみよう! 地域に広げていこう!

## 2. 外部原稿等

出版年	書籍名	内容等
2008年 4月 4日	ENVIROASIA(日中韓環境情報サイト)	高校生と自転車マップづくり(林)
2008年 5月 1日	ENVIROASIA	西淀川・公害と環境資料館「エコムーズ」紹介 (鎗山)
2008年 6月10日	人間と教育(民主教育研究所)	座談会—地球温暖化問題と向き合う(林)
2008年 7月18日	ENVIROASIA	地域の宝「大野川緑陰道路」を伝える冊子が完成(小平)
2008年 7月25日	ENVIROASIA	フードマイレージ買い物ゲームで生活を見直す(林)
2008年 8月 8日	ENVIROASIA	高齢の公害患者がより快適に生活できるために(矢羽田)
2008年 8月22日	ENVIROASIA	子どもたちの「足と目」が支える指標生物調査(小平)
2008年10月17日	ENVIROASIA	セミのぬけがらで地域を診断(小平)
2008年11月21日	ENVIROASIA	公害地域の環境再生・そのアジアへの発信(矢羽田)
2008年11月	防災科学技術研究所研究資料第330号	大阪市西淀川区大野川緑陰道路を巡るガバナンスについて(藤江)
2008年11月15日	おおさかの住民と自治	驚きから行動へ フードマイレージ買い物ゲーム(林) 食の安全・安心と地産地消(上田)
2008年11月	子ども会大阪(子ども会の広報誌)	買い物で地球温暖化防止(林)

出版年	書籍名	内容等
2008年12月22日vol.17	ESDレポート	フードマイレージ買い物ゲーム(林)
2009年3月5日1月9日	ENVIROASIA	公害・みんなで力をあわせて—大阪・西淀川地域の記録と証言—(林)
2009年1月号(第57号)	エコニュース	みのお・かんきょう探偵団(箕面市都市環境部発行)「フードマイレージってなあに?」
2009年 1月20日	季刊『環境と公害』第38巻第3号、2009年1月号	包括的呼吸ケアリハビリテーション:その効果と課題(矢羽田、他)
2009年 3月	地域から学ぶ・つなぐ 39のヒント(環境省)	日本語版・英語版 ESD 菜の花プロジェクト(西淀川高校)
2009年 3月	ESDをはじめよう2008(環境省きんぎ環境館)	楽しいことから「つながり」を発見しよう～西淀川地域のESD実践紹介
2009年3月31日	NPOのための実践! ロジックモデル作成ガイド	ロジックモデルづくり事例、編集協力(鎗山) (発行:特活・市民フォーラム21・NPOセンター)

## 3. 対外活動

日にち	形式	内容
2008年 4月28日	受入	神戸大学文学部哲学専攻 資料館受入(ESD関係)
2008年 5月15日	講師	桃山学院大学産業経済論 フードマイレージ講義(林)
2008年 5月16日	参加	大阪市地域福祉活動推進委員会
2008年 5月24日	パネラー	市民が提案するもう1つの環境サミット(神戸)(藤江)
2008年 5月28日	出展	G8環境大臣会合関連イベント「NGO・NPO交流の広場」
2008年 6月11日	講師	北河内地域生活科総合的な学習教育研究会フードマイレージ講義(林)
2008年 6月14日	報告者	名古屋南部地域再生センター総会(上田)
2008年 6月15日	指定発言者	OPEN市民フォーラム2008(林)
2008年 6月16日	講師	西宮市消費者センターフードマイレージ講義(林)
2008年 6月18日	講師	鳥取環境大学授業(林)
2008年 6月22日	受入	松原高校環境部受入
2008年 6月24日	参加	第12回西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会
2008年 6月28日	講師	いずみ市民生協講座(林)
2008年 7月 2日	講師	吹田市教育委員会フードマイレージ講義(林)
2008年 7月 4日	受入	韓国司法修習生
2008年 7月14日	講師	いずみ市民生協フードマイレージ講義(林)
2008年 7月18日	参加	尼崎南部地域見学ツアー
2008年 7月20日	講師	ガールスカウト26団フードマイレージ講義(林)
2008年 8月2日	講師	JICA大阪国際教育セミナーフードマイレージ講義(林)
2008年 8月2～3日	参加	イタイイタイ病立入調査
2008年 8月 7日	講師	大正区女性学級フードマイレージ講義(林)
2008年 8月 8日	受入	大阪経済大学ボランティア論実習受入
2008年 8月10日	参加	第5回菜の花学会・楽会
2008年 8月11日	講師	よどがわ市民生協東淀川区行政委員会フードマイレージ(林)
2008年 8月19日	受入	神戸まちづくりアーカイブ見学受入
2008年 8月31日	講師	福島県地球温暖化防止推進センターフードマイレージ講義(林)
2008年 9月2日～10月30日	出展	西淀川図書館に展示
2008年 9月 9日	受入	大阪市中学教育研究会特別活動部2ブロック見学研修受入
2008年 9月10日	講師	千代田高校フードマイレージ(林)
2008年 9月11日	講師	よどがわ市民生活協同組合食を考えるひろば事前プレゼン(林)
2008年 9月17日	講師	豊中市小中学校教育研究会フードマイレージ(林)
2008年 9月21日	報告	第26回日本環境会議水島大会・第3分科会「公害経験と環境再生・そのアジアへの発信」 『公害経験の教訓を活かした環境再生のまちづくり—地球温暖化防止の視点から』(矢羽田)
2008年 9月20～21日	参加、報告	第26回日本環境会議水島大会(～21日、参加、報告:矢羽田)
2008年 9月21日	参加	東淀川区民祭り
2008年 9月27日	参加	西淀川区民まつり
2008年10月 4日	参加	郷土史を語る
2008年10月 7日	講師	大阪経済大学「東淀川区自転車マップづくり」(藤江)
2008年10月11日	報告	環境NGOと市民の集い(上田、林)
2008年10月11日	講師	大阪経済大学「東淀川区自転車マップづくり」(藤江)
2008年10月15日	報告	大阪市中学教育研究会特別活動部全市一斉研究発表会(林)
2008年10月16日	講師	物流環境管理士養成講座「エコドライブ」(藤江)
2008年10月16日	講師	滋賀県立大学授業(林)
2008年10月18日	報告	西淀川公害患者と家族の会第37回総会『あおぞら財団・この1年の活動報告』(矢羽田)
2008年10月19日	講師	福島県地球温暖化防止推進センターフードマイレージ講義(林)
2008年10月21日	参加	第二回アイス倶楽部会合(参加)
2008年10月26日	出展	西淀川子ども子育てプラザなかよしまつり(出展)
2008年10月28日	講師	ならコープフードマイレージ講義(林)
2008年10月30日	講師	池田市細河小学校フードマイレージ講義(林)
2008年11月 3日	発表	一村一品・知恵の環(わ)づくり 大阪大会
2008年11月 7日	講師	よどがわ市民生協講座西淀川区行政区(林、鎗山)
2008年11月 8日	出展	西淀川高校文化祭
2008年11月 9日	出展	2008サイクル&エコカーニバル
2008年11月12～13日	参加	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会

日にち	形式	内容
2008年11月15日	講師	東大阪市事業・企画担当者交流会(藤江)
2008年11月16日	参加	第58次大阪教職員組合教育研究集会
2008年11月17日	講師	龍谷大学えこ恋フードマイレージ講義(林)
2008年11月22日	参加	市民が進める温暖化防止2008
2008年11月23日	講師	伊賀上野温暖化防止フェスタフードマイレージ講義(林)
2008年11月25日	講師	よどがわ市民生協(淀川区行政区)フードマイレージ(林)
2008年11月26~28日	出展	ニューアース展
2008年11月26日	受入	きのくに国際高等専修学校
2008年11月29日	講師	箕面市環境講座(林)
2008年12月 4日	受入	JICA研修受入
2008年12月 5日	パネリスト	シンポジウム「アジアと日本のつながりを考える国際セミナー：100人の村 あなたもここに生きています」(林)
2008年12月 6日	参加	ESD-J地域ESDワークショップ(林)
2008年12月 9日	講師	淀商業高校フードマイレージ(林)
2008年12月 9日	講師	日本福祉大学「地域福祉・地域再生活動を考える」授業(藤江)
2008年12月12~13日	出展	とよなか市民環境展
2008年12月15日	講師	徳島市環境リーダー講座(藤江)
2008年12月18日	講師	夙川学院短期大学フードマイレージ講義(林)
2008年12月19日	講師	淀商業高校フードマイレージ(林)
2009年 1月17日	講師	生き生き地球館フードマイレージ(林)
2009年 1月28日	講師	茨木環境市民大学フードマイレージ(林)
2009年 1月31日	講師	生き生き地球館フードマイレージ(林)
2009年 1月31日	参加	第37回公害環境デー
2009年 2月 1日	受入	韓国グリーン코리아 小・中・高校生 日本探検隊
2009年 2月10日	受入	環境省視察受入
2009年 2月13日	講師	神戸シルバーカレッジフードマイレージ講義(林)
2009年 2月14~15日	参加	ストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会2009
2009年 2月20日	受入	JICA視察受入
2009年 2月21日	発表	ECOまちネットワーク・よどがわ 環境まちづくり市民交流会(林)
2009年 2月24日	受入	日本福祉大学牧ゼミ受入
2009年 3月 1日	受入	水俣市、飯田市、職員受入
2009年 3月 5日	講師	佃中学校フードマイレージ講義(林)
2009年 3月16日	講師	徳島市環境講座(藤江)
2009年 3月18日	受入	ポール・ジョバン氏ほか、見学
2009年 3月20日	受入	リンクスあおぞら財団見学
2009年 3月21日	発表	女性史総合研究会3月例会(林)
2009年 3月28日	受入	関西自然住宅推進ネットワーク見学

## ありがとうございます

### 08年度お助けボランティア参加者

浅井真二	岡崎久女	前田浩輔
足立千鶴	尾崎寛直	松原伶
五十嵐	蒲原ヨシ子	宮本はな
池田風弥	酒井美代子	山崎広志
石橋勝	阪井沙代	山田俊輔
伊藤亜紀穂	佐多一弘	除本理史
入江智恵子	玉城亜理沙	吉岡美佐緒
大澤和由	豊田鈴子	吉川知里
大野みさ子	永野千代子	西野慧

### 08年度インターン参加者

稲野宏樹	大阪経済大学経済学部3年生
佐多一弘	京都外国語大学外国語学部3年生
畠山貴子	桃山学院大学法学部3年生
平野早希子	桃山学院大学社会学部3年生
野田健太	大阪経済大学経営情報学部3年生

## 財団法人 公害地域再生センター (あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階  
 TEL : 06-6475-8885 FAX : 06-6478-5885  
 URL : <http://www.aozora.or.jp/>  
 E-Mail : [webmaster@aozora.or.jp](mailto:webmaster@aozora.or.jp)

